



# 八王子盲学校だより



令和7年12月発行 第8号  
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

## 2学期を振り返って

副校長 落合 隆一

師走を迎え、2学期もまとめの時期となりました。真夏の暑さが続いていた9月から、一気に寒さを感じる季節になりました。四季ではなく「二季」といった言葉も聞かれるようになり、季節の移ろいを味わう間もなく、時間がハイスピードで過ぎていくような印象があります。

2学期は、仮設校舎移転から1年が経ち、落ち着いて学校生活を送る事ができたのではないかと思います。環境を把握し、主体的な活動を促す指導の積み重ねにより、1人で出来ること、言われなくても自ら出来るが増え、そうした実践の積み重ねが自信、積極性、自己肯定感などにつながっていると感じています。

11月1日(土)に実施した六光祭には、160名を超える来校者に、幼児・児童・生徒の実践の成果を見ていただくことができました。仮設校舎での初めての実施となりましたが、保護者や地域の方々、卒業生との会話の輪があちこちに広がり、あらためて多くの方に支えられていることを感じる機会となりました。また、幼児・児童・生徒が、それぞれ緊張しつつも、発表や接客、販売等の取り組みに一生懸命取り組んでいる姿や、場を楽しみ、笑顔で過ごしている姿を見て、有意義な時間となったのではないかと感じています。御来校いただいた皆様に、感謝申し上げます。

大きな行事は、当日のみにスポットが当たりがちですが、当日を起点に過去に遡ると、日常の学習の積み重ねが見えてきます。練習を頑張った事はもちろん、学んだ事を異なる場で生かすことで、得た知識を関連付け、より深い学びとして得ていく経験を積んできたことが、成長の礎になっていると考えます。こうしたプロセスを受け止め、肯定的な評価としてフィードバックしていく事も、教育活動の中で大切にしているものになります。

また、行事を起点に未来に視点を移すと、今度は幼児・児童・生徒の変化が見えてきます。全体像での気付きとしては、幼児・児童・生徒の声がよく聞こえるようになりました。日常の少人数での学習環境から多くの人の前で声を出す経験をした事が、良いきっかけとなっているのだと思います。緩やかな漸進的な成長だけでなく、ある出来事をきっかけとした成長が見られることがあります。行事にはそうしたきっかけとなる役割もあるのだなと感じています。

ここからは、年度末に向け、進級、進学、卒業後の生活に向けた大切な時期になります。年度末が良い形で節目となるよう、日々の実践の充実に努めてまいります。

学校評価アンケートへの御協力ありがとうございました。これから集計の作業に入りますが、いただいた御意見を踏まえ、よりよい学校づくりに向けて検討を進めてまいります。3学期の全校保護者会では、学校評価の結果も反映させ、次年度に向けた本校の教育活動について御説明させていただく予定です。

## 2学期の主な取組について

### 【幼・小学部】

主幹教諭 二方 宏和

学校の中や外でたくさんのイベントがあった2学期でした。社会科見学では、3年生が江戸東京たてもの園に行き、日本の昔ながらの建物について学習しました。4年生は八王子市の清掃工場である戸吹クリーンセンターへ見学に行き、ごみの処理、リサイクル、リユース、リデュースについて学びました。5年生は、マヨネーズ製造会社が運営するキューピーマヨテラスへ行って製造工程など見学しました。秋の遠足として、2組は多摩動物公園へ行きました。ライオンバスに乗って楽しみました。6年生は修学旅行として鎌倉へ。古都鎌倉で古いお寺や仏像に触れることができました。六光祭では、みんな普段の学習の成果をそれぞれの形で披露しました。幼稚部の可愛いダンスや、社会科見学で学習したことを題材とした発表、日ごろ感じていることを詩にしたり、学年を超えて息の合ったダンスを披露したりと、たくさんの見どころのある舞台発表となりました。模擬店では幼小学部全員で「缶積み」「スーパーボールすくい」「へちま石鹸販売」などを行い、こちらも大いに盛り上がりしました。3学期も元気いっぱいにご覧しましょう。

### 【中学部】

主幹教諭 栗本 みゆき

10月、1学期に続き今年度2回目となる館小中学校との交流会を、八王子市立館小中学校にて行いました。同年代の仲間と直接交流することで、生徒達は楽しい時間を過ごすとともに、新たな気付きや刺激を得ていました。また、「総合的な学習の時間」に、地域清掃を行いました。台町交差点付近までの通学路に落ちていた、吸い殻やペットボトルをはじめ、植え込みの中のゴミも熱心に探して拾い集めました。拾ったゴミの7～8割がたばこの吸い殻だったこと、思った以上にゴミが落ちていたことに驚いた、といった感想や、「楽しかったのでまたやりたい」という感想が多く聞かれました。

11月、六光祭ではステージ発表を行いました。今年は日常をテーマにしたミュージカル劇で、生徒8名がシーンごとのつながりを意識しながら自分の配役について考えるなど、各自が改善を繰り返し、本番は全員で見事に演じ切りました。また3年生は模擬店にも挑戦し、喫茶店の装飾やお菓子・ジュース等の販売、お客様とのやりとりを通じて多くの学びを得ました。中旬には職場体験もありました。八王子市内の事業所等4か所に御協力いただき、実際の職場で、働くことについて考える貴重な機会をいただきました。今後も、体験を通して自信や学びを深める取組を大切にしていきたいと思います。

### 【高等部普通科】

主任教諭 川嶋 拓

普通科は11月の六光祭で、授業の成果を試すため模擬店としてポヌール・カフェ～ハッピー・クッキー・バナナザ～を出店しました。2学期に入ってから進路活動や体調不良などで全員がそろわない日が続きましたが、それぞれができることを「やりきる」姿勢で準備に取り組み、接客の練習や店の内外装づくりに励みました。商品を入れる袋は、コピー用紙の外装を使い一つ一つ手作りました。また、タグのデザインやロゴマークも生徒が考えました。

開店直前の緊張、開店直後の行列、そして予定より早く完売したときの安堵と達成感。自然と大きな声が出るようになり、全員が「やりきった」表情を見せていました。産業社会と人間などの授業で大切にしていることを実体験することで、心に深く響く学びとなりました。今後の成長が楽しみです。

### 【高等部理療科】

主幹教諭 野村 利己

日本では、江戸時代より『視覚障害者の職業＝あん摩・はり・きゅう』ということが広く知られてきました。「令和6年衛生行政報告例(厚生労働省)」によると、あん摩マッサージ指圧師は全国11万9,703人、はり師は全国13万6,736人、きゅう師は全国13万4,730人で、いずれも調査開始以来最多となっています。その一方で視覚障害者の占める割合は、あん摩マッサージ指圧師21.7%、はり師10.8%、きゅう師10.5%と減少傾向が続いており、現代は『視覚障害者の職業＝あん摩・はり・きゅう』とは言えない時代だということがわかります。超高齢社会を迎え、健康への関心が高まる中で、医療の一翼を担う者として理療の果たす役割と責任はますます大きくなっています。

2学期は平常の授業以外に、施術所実習講座(9月)、解剖実習見学(10月)、校外臨床実習(10月及び11月)、模擬試験(11月)、ヘルスキーパー施術所見学(12月)、特別講座(12月)などの行事があり、生徒たちは貴重な経験を積むことができました。卒業後の進路はもちろんのこと、日々の学校生活は決して平坦な道のりではありませんが、在学中の3年間で確かな知識と技術を身に付け、患者から信頼されるあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師になってほしいと願っています。

※「衛生行政報告例」は2年に一度、厚生労働省より公表されるものです。